

第2回国際北極研究シンポジウム

公開講演会「北極の温暖化はどうなっているのか？」

—世界の北極研究者は語る—

日時：2010年12月6日（月）18:00～20:00（開場17:00）

会場：一橋記念講堂（学術総合センター）東京都千代田区一ツ橋2-1-2

主催：日本学術会議地球惑星科学委員会国際対応分科会（国際北極科学委員会小委員会）、国際北極研究シンポジウム組織委員会（ISAR-2, IOC）

共催：国立極地研究所、海洋研究開発機構、宇宙航空研究開発機構、国際北極圏研究センター

参加費：無料。同時通訳で進行し、先着順で400名

web site: <http://www-arctic.nipr.ac.jp/isar2pub/>

プログラム

18:00-18:10

開会及び趣旨説明

神田啓史（学術会議、国立極地研究所）

18:10-18:45

大村 纂（スイス連邦工科大学チューリッヒ校名誉教授）

東京大学卒業後、マギル大学修士課程、スイス連邦工科大学チューリッヒ校（ETH）博士課程を修了し、ETH教授、国際雪氷学会会長、WCRP世界放射監視センター財団ディレクターを経て、現在、ETH名誉教授

演題「北極の気候変動論争」

18:45-19:20

ラリー ヒンズマン（国際北極圏研究センターディレクター、アラスカ大学教授）

サウス・ダコタ州立大学卒業、パデュー大学修士課程、アラスカ大学博士課程修了後、同大学北方技術研究センター教授、米国永久凍土協会会長を経て、現在、国際北極圏研究センターディレクター

演題「変動する北極域における永久凍土と水文学的システム」

19:20-19:55

デイビッド ヒック（国際北極科学委員会プレジデント、アルバータ大学教授）

クイーンズ大学卒業後、トロント大学修士課程、プリティッシュコロンビア大学博士課程を修了し、オーストラリア連邦科学技術研究機構、トロント大学教授、カナダ国際極年事務局長を経て、現在、アルバータ大学教授

演題「変動する北極環境における陸域生態系と観測網」

19:55-20:00

閉会

大畑哲夫（海洋研究開発機構）

第2回国際北極研究シンポジウム
公開講演会「北極の温暖化はどうなっているのか？」
—世界の北極研究者は語る—

趣旨説明

国際北極研究シンポジウムは3年ほど前から、日本学術会議での議論を踏まえて、北極研究に関心のある研究グループが活動を開始して、2008年11月4～6日に日本科学未来館で開催したのが最初でした。この第1回国際北極研究シンポジウム（ISAR-1）は「北極域の急激な温暖化」をテーマに掲げ、北極域で起こる現象を包括的に探求し、先端研究の最新情報を共有することで、北極域科学の総合的議論を深めることが目的でした。このシンポジウムは日本から発信された新しい北極研究の幕開けでした。

本公開講演会は第2回国際北極研究シンポジウムの一環として開催され、日本学術会議国際北極科学委員会（IASC）小委員会及び国際北極研究シンポジウム組織委員会（ISAR-2, IOC）が主催となっています。このシンポジウムのテーマは「変動する地球における北極システム」であります。

近年の地球温暖化に伴う気候変動が、自然界のフィードバックを介してもっとも顕著に現れるといわれているのが北極圏およびその周辺の北極域であります。国際極年（IPY 2007-2008）を契機に、北極域における長期的に持続する観測、監視体制の重要性が叫ばれ、国際協力のもとでの対応が急がれています。日本の研究者も80数件に及びIPYプロジェクトに加わって国際的な枠組みの中で研究活動をしてきました。さらに2007年のIPCC（気候変動に関する政府間パネル）の報告によると、地球温暖化は人為起源の温室効果ガスが原因であるとほぼ断定し、実際は予測以上の速さで気候・環境変動が進んでいることが指摘されました。しかし、地球温暖化と気候の将来予測に関する研究のまとめや評価には懐疑論が多いのも事実です。これらの議論は具体的な観測データによって実証されねばなりません。

本公開講演会では一般市民を対象に「北極の温暖化はどうなっているのか？」をテーマにして、国際的に活躍されている3名の研究者を招待し、現在、北極における最も重要なトピックスを取り上げました。今、北極域で起こっている気候温暖化がどのように理解されているかについて、具体的な観測成果に基づいて解説し、その原因について取り上げます。また、グリーンランド氷床や海水の急激な縮小、淡水流入による海洋環境の変化、北極域の温暖化に伴う永久凍土の融解と森林火災などが北極システムに及ぼす影響などについて議論します。さらに北極域の陸域に至っては、生態系への気候変動の影響は深刻であり、動植物の変化は人類にとっての重大な関心事であることは言うまでもありません。

皆様におかれましては、本公開講演会を通して北極域の気候変動についてのさまざまな局面とプロセスについての現状の理解をいただき、今後の課題と日本の立場、役割を考えていただければ幸いです。また、単に北極域ばかりでなく地球全域での気候・環境変動に関心が及ぶことを期待して、多数のご参加をお待ちしています。

第2回国際北極研究シンポジウム事務局
国立極地研究所・海洋研究開発機構